



CINCH に関するよくある質問集

Q：シンチはオートロック (Auto locking) の確保器でしょうか？

A：いいえ、固定補助 (原文 Locking Assist) 確保器 と表現すべきものです。たいていの場合、シンチはしっかりしたロープロック (固定) を提供しますが、だからと言ってブレーキエンド側のロープを握った手を決して離してはなりません。さもなければクライマーに対する適切で確実な確保が行えません。

Q：初心者にシンチを用いて確保させるのは適切なことでしょうか？

A：いいえ、シンチを使つての確保は従来から普及しているタイプの確保器「ピラミッド」 (TRNGO 社製確保器) などと同様の、もしくはそれ以上に使いこなす技量が必要です。他の確保器の利用と同様に、シンチも未経験者や不注意なビレイヤーが使うと危険性が高いことは変わりありません。

Q：シンチは必ずロープロックがはたらき (作動し) ますか？

A：いいえ、もし使用者が操作に注意を払わなかったり、使用法を間違ったりすると、他の確保器でもあるように確保対象のクライマーを墜落させかねません。

Q：シンチの取扱説明書やシンチのプレート上にあるプリント表示では「シンチはUIAA / CE認定のシングルロープに適合する」とありますが、私の所有する 8.4mm 径のハーフロープに用いてもちゃんとロープロック (固定) が効きそうです。どうしてこのロープでの確保にシンチは使えないのでしょうか？

A：あなたの 8.4mm 径ロープ (または 8.9mm 径以下の細いロープは全て) は CE もしくは UIAA、いずれのシングルロープとしての利用では認定されていません。よって CE もしくは UIAA によりシングルロープとしての認定を受けていないロープではシンチを利用しないでください。

Q：シンチはロープ利用のソロクライミングにもってこいの確保器だと思われませんが、そのような使用はどのようにですか？

A：どんな場合でも、トップロープまたはリードスタイルの区別なくソロクライミング確保へのシンチの利用は推奨できません。TRANGO 社ではシンチについて多くの開発試験を繰り返し行いましたが、それらはビレイヤーの操作による対クライマー確保とローリングについての実証であり、ソロクライミングでの自己確保に関する試験は全く行っておりません。つまり、ソロクライミング確保を目的としたシンチの利用は TRANGO 社による保証の範囲外であり、利用者の自己責任に帰属するものです。

以下は重複しますが、これについてアメリカ TRANGO 社の弁護士からのコメントです。

『シンチはどんな状況下においてもソロクライミングおよび自己確保に利用するようには設計はされておらず、またそのような利用は認められておりません。ソロクライミングおよび自己確保での利用は死亡事故や重傷といった結果に至るでしょう。シンチの本来の目的以外の利用については確認試験を実施しておらず、認められていません。シンチは自己確保器としては設計されておらず、そのような不適切な利用方法は致命的結果を招く可能性をはらんでいます。シンチは製品に添付の説明書に図示された利用方法についてのみ、設計され、販売され、その利用を認められています。

取扱説明書に図示されていない方法でのシンチの利用は事故を招き死亡や重傷に至ります。利用者はシンチを操作する正しい利用方法の習得と正しい操作を行う責任があります。

利用者は自己のシンチの利用によるリスクやケガ・死亡に対して責任を負います。もし、その責任について受入れられない場合はシンチを利用しないでください。

シンチの製造業者並びに再販業者は、シンチの使用に関わって起こりうるあらゆる人的ならびに物的損害、傷害、死亡事故に対するいかなる責任をも明確に拒絶します。』

Q：時おり、シンチのロック解除が大変な場合がありますが？

A：シンチでローリングを行う場合は取扱説明書を必ず読み、理解し、指示に従ってください。もし、レバーを単に引き倒しているのであれば、解除は難しく、そのうえレバーさえ傷めてしまいます。右の写真に示されるように、親指をリリースレバーの回転軸にあてがいレバーを操作してください。シンチの設計は UIAA 認定のダブル(ハーフ)ロープやツインロープでの使用を前提としていません。(Q&A 前述) これらの細い径のロープでも十分にロープロックが効いているように感じられますが、その一方で解除は極端に難しくなり、利用者は危険な状況に陥ります。



Q：シンチはどのような仕組みでロープをスムーズに繰り出すのですか？

A：シンチはロープを軸やカラビナに沿って曲げる必要がなくシンチの内部でロープはまっすぐな経路を進むからです。

Q：どうやって墜落をとめるのでしょうか？

A：シンチの内部を通過するロープがレバープレート（銀色）を回転させ、走っているロープを挟んでしっかり止めます。

Q：誤ったシンチの握り方はありますか？

A：あります。確保中のシンチのもっとも良い握り方は両側の回転軸穴を右手親指と人差し指で挟み、他の3本の指で掌中のロープを握ります。右の写真の示す通りです。ロープを握った3本の指は専らブレーキハンドとしての役割を果たしています。このほかの握り方では、シンチが適切に稼動する妨げになるでしょう。またシンチ上部にある銀色のリリースタブを引き留めたままで、ロープの繰り出しを行うのはやめてくださいこれもシンチの正確な稼動（必要に応じたロック）を妨げることになります。

注：右の写真は右利きの人による利用です。左利きの方は写真と手が入れ替わっても差支えありません。



Q：クライマーがクリップの際にロープを引くとシンチのロープロックが働いてしまうことがあり、クライマーに対し若干ロープを緩める必要が生じるケースがありますが、あらためてロープを出すにはリリースレバーを引かねばなりませんか？

A：いいえ、ロープのテンションがわずかなものであれば、親指で小さな銀色のリリースタブ（右写真）を引くことで、すばやくロープを緩めることが可能です。必要分だけロープが出れば、すぐに手を通常ポジションに戻して確保体制に入ってください。確保中にはこの銀色のリリースタブを使ってシンチがロープをリリースした状態を決して続けないようにしてください。



Q:確保やラッペル(懸垂下降)を始める前に、ロープがシンチに適切に装填されているかどうか確かめるために行うべき手順はありますか？

A:あります。ロープを装填したシンチをロックングカラビナでハーネスに取り付けた後、クライマー(あるいは懸垂の支点)に繋がる側のロープを力強くぐいっと引っ張ってください。それでロープにロックが掛かれば、ロープはシンチに正しく装填されています。もし、ロープが抵抗なく流れるのであれば、ロープの装填が正しくありません。違う方法でロープをシンチに装填し直してください。そのうえで必ずもう一度強く引いて確認してください。



Q:シンチで重いクライマーをローワーダウンさせたり、ラッペル(懸垂下降)したりするのは、なかなか骨折りますが、何か良い方法はありますか？

A:リリースレバー軸の下に親指を宛がってリリースレバーを握り引き下げるのがもっとも効果的です。必ずこの握り方で実行してください。レバーをテコの様に作動させて引く間、親指をしっかりとレバー軸の下に押し当ててください。またレッグループに掛けたカラビナにブレーキエンド側のロープを通して流れの向きを変えてやるとローワーリング(あるいはラッペリング)が円滑にコントロールできます。

